

京交山岳部報

No 400

'86 2月号

〔第1570回例会〕

比良 蓬萊山

(T)

日 時 2月2日(日) 京都駅 2番ホーム 7:30集合
コ ー ス 志賀駅…天狗杉…クロトノハゲ…打見山…蓬萊山
小女郎峠…小女郎谷…蓬萊駅
担 当 者 OB 津田 実(TEL 798)
備 考 冬山装備一式

〔第1571回例会〕

スキー登山

射 能 山

(A)

日 時 2月15日(土)~16日(日)
コ ー ス 京都一長浜一甲津原一奥伊吹スキー場…山頂(スキー登山)
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 722)
備 考 マイカーで行きます。山頂小屋にて泊りますのでシュラフ持参して下さい。

〔第1572回例会〕

岩岳スキー

(R)

日 時 2月17日(月)~20日(木) 17日 急行きたぐに乗車
担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 788)
備 考 参加者は担当者まで申込むこと。

〔第1573回例会〕

府県境シリーズ(61-9)

三国岳と深山

(T)

日 時 2月23日(日) 7時30分 みぶ出発
コ ー ス 京都一園部一竹井一原山峠一三国岳一福住一天王一深山
担 当 者 高速 岡田茂久(TEL 2-3282)
備 考 今年も府県境シリーズを楽しく行きましょう。

〔第1574回例会〕

伊 吹 山

(T)

日 時 2月25日(火)
担 当 者 烏丸 大倉寛治郎 (TEL 889)
備 考 マイカーで行きますので連絡して下さい。

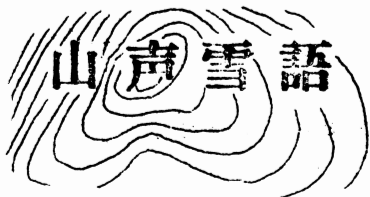
今月の集会

読図について (岡田担当)

2月 7日(金) 下鴨寮

企画運営リーダー会

2月 21日(金) 三橋宅



ロマンの山旅

岡 田 茂 久

今年が初登山として大和三山に登ってきた。三山ともたかだか150m程度の標高であり、しかももともと土地の高い奈良盆地のことであるから、平野の中の丘といったようなものである。登頂時間にしてそれぞれ30分もあればゆっくりで、これを登山というにははなはだ面はゆいものではある。登山をスポーツという観点でとらえればこんなものは対象外でありトレーニングにもならないものである。

もともと我国においてはスポーツとしての登山はおろか、趣味としての山登りもなくそれどころか一般の庶民が山へ入るといった風潮もなかった。山へ登るという行為をする人々はかぎられており、山の民が生活の場として、また山は神仏の宿る神聖な場としてとらえるところの信仰のため等、ごく一部の人間に限られていたのである。「物見遊山」のことばはある。しかしこの山は登るといふ意味ではない。江戸時代後期には画家として有名な「谷文晁」が「日本名山図会」を刷った。これには日本全国の名山の画が収められている。しかしこれは絵画の観賞と風景を楽しむ人々には好んで求められはしたが、その対象となる山はやはり信仰の山が多く、いまでいう登山のためではなかった。

我々のいう登山の原形というべきものは、明治の文明開花の波に乗ってやってきた西洋人の行為が大きく影響したが、自然を征服するという西洋的な考え方と異り、一方ではより高見へ又未知なるものへ触れ、それと共に自然と対峙し思考するという東洋的な思想も又、生まれてきたと考えられる。多くの人々が山に登るようになり、やがて近代アルピニズムが導入され、時の流れにその思想

は軽んじられて現代では登山はスポーツの1ジャンルとして人々にとらえられ国民体育大会の種目にまでなるように変わってきたのである。

しかし、我々が登山を始めた頃にはスポーツという概念はもってはいたものの、現在のように競技化されるとは思ってもいなかった。いまや登山技術を競う「競技」から「競争」に変わってきた国体をみると、又、ロッククライミングをし3000mの冬山に登らなければ登山家にあらずという風潮のなかで、やはり登山の原形に想いをはせる必要もあるのではないだろうか。

登山の可能性とその限界を求めることも人間の本能としてまたやむをえない。しかし広大な力を秘めた大自然と、その中の小さな自分を対比し、そして悠久に続いてきた自然と人間のその限りなきロマンスに想いをはせる山旅もまた必要ではないだろうか。

飛鳥の地に古代人の息吹を訪ね、幾多の歴史に彩られた山野を山頂から眺め「ああ！ ロマンやな」と嘆息したメンバーのつぶやきには、のほれ！のほれ！のいつもの山行きには得られないなにかが感じられたのである。

第1565回例会

今勝アルプス

阿星山 Δ 693.1m 珍山行

津 田 実

12月13日午後6時45分頃、これから夕餉の一杯と想着いたら、突然、けたたましい電話のベル、何事と慌てて受話器を取ると、聞き慣れた三橋さんの声、「15日の三国は止めになったさかい、7時に局へ来てんか。エエ山に行くさかいな」そこで小生「何処、行くねーん」「そら解らん」そんなアホな山行きて聞いたことがない。

大槻副部長が聞いたら真赤になって怒り出すのは目に見えている。然し、8日の休みはカゼを引いて一日ねんね。家にいたらオバハンに山へ行けと怒鳴られる。そやけど、病気に勝てんのでおとなしく寝ていたが、カゼがなおったら、そうはいかん。

3月の総会で例会50回参加と大勢の人の前でエエ恰好した手前がある。どんなことがあっても山へ行かんならん。「それがエエ、恰好と云うもんや。年寄り、オトナシウ炬燵のモリでもして」て、ですか。エライ、スンマヘン。 閑 話 休 題

同じ行くなら、今年の秋に行きそこねた霊仙山 Δ 750.8mに行きたかった。これを登ったら、蛇谷が峰から霊仙山迄、比良の山は踏破したことになる。然し、願望空しく、湖南の阿星山 Δ 693.1mに行くことになる。そこで、三橋さんが気をきかして帰りに三上山へ行こうとって戴いた。あこは百足のいる山で、俵藤太しか行けへんでー、と、笑い乍ら阿星山へ向う。

阿星(あほし)山の由来は宗教用語の阿吽から来ているのだとか、山麓には、常楽寺や長寿寺など国宝の寺院が多く散策に最適だ。また、二等三角点の山頂は湖南の最高峰だけに、比良や比叡、

鈴鹿、湖南アルプスの山並みが素晴らしい。これは車中で三橋さんが貸して呉れた案内書の一文である。俄に案内書を読んで、こらオモロイ山やと喜んでいたが、それが思はぬ災難にありとは夢知らず、馬鹿は死なな、なおらない。南無阿弥陀仏。

金勝寺川に沿って観音寺の集落にはすぐに着いたが、集落の内は家をドカサないと車が通れない程、狭い。その内を蠕動に次く蠕動でやっと通り抜けたら終点だった。

岡田部長の名ドライバーぶりに恐れ入る。小生だったら集落の中でダウン。前進も後退も出来ぬところだ。運転技術に万才。車を出ると外は一面の霜柱。ワハー、サム。これやったら矢張り炬燵の守りしてたらよかったー。

驛道に近い小径を辿って行くと、突然、前方に巨大なダンプカーが出現、林道を作っているところだった。林道はUターンしているが、谷の脇の道があった。そこから尚も小径を登って行くと、又もや林道が現われた。今度のは舗装がしてある。なんじゃ、これでも山かー。ブツブツ、ボヤキ乍らもこれしか行く道がないので登って行く。途中、右側は素晴らしい景観で案内書のとおりだった。

左側に電電のマイクロウエーブでも出来るのか工事が行われていた。その手前に登山口があったが、雑木林の伐採中で歩行は危険と尚も林道を進み、峠状のところから尾根へ登って行く。これが又歩き易い径で先頭の三橋さんはどンドン行くが、小生、朝食用のニギリめしを功ちゃんに取りられすき腹の歩行は身体に悪い。それでも、なんとか阿星山々頂に辿り着く。万才。ハヨ飯を喰ってもう一つ稼がり。

山頂は南西の風が強いから尾根越しの地点で食事に好い場所をと、三橋さんが探しに行っている間に、山頂真下に好い番台があるのでそこにしよう岡田部長が強引に降りて行くので、仕方なく付いて行く。其処は冷風100%、EPIに火を付けるにも手がカジカンで思うように出来ない。三橋さんのサッポロから空輸して来たと言うラーメンの出来るのを待っていたら、明日になる恐れがある。岡田部長と大槻さんは手きわよくラーメンを作って呉れたので、持参の缶ビールを傾ける。これは小生の特効薬だ。これのない山行は考えられない。同行者にもすすめたが寒いからと断われ、仕舞いにビールで食器を洗う不心得者がいたのには愕いた。こんなヤツは、もう山へ連れてやらん。と心に誓った。

工事場を抜けて少し行くと左に降りる径があったので心得顔に下り出すと、そっちと違う、こっちやと右側の尾根越しの道を下って行く。地図は左側だが、岡田部長の確信ある指示に従う。山ではリーダーの指示が絶対である。

この道は散策道と見えて手入れも行き届き、指導標も完備。アッと云う間に林道に出て仕舞った。ところが地図上の現在位置がつかめない。S50年製作の5万には此の林道は載ってない。フト右下を見ると赤い布切れと小道があるではないか、これだと、全員勇んで降りて行く。大分荒れてはいるがしっかりした登山道である。それを降りて行くと驛道に近い林道に合った。三橋さんと大槻さんは水を補給する為に谷に降りたから岡田さんと小生は一服付ける。

それからその道をドンドン下りて行くと、立派な舗装道路に出た。右手に地藏さんが祀られ、自然

の流れが樋から地中に埋められた桶に流れ込んでいる。余り勿体ないのでありがたく拝受して舗装道路を左手へ歩き出す。少し行くと小学4年生位の少女が自転車で来たので、「ここはどこですか」と尋ねると、西寺(にしじ)です。常楽寺は左下の道ですと丁寧に教えて呉れた。その道を行くと小川があり、常楽寺集落手前に左手に入っている山道がある。これを行って尾根を越すと目指す観音寺の集落は指呼の間と勇んで歩き出す。街道を歩くより一時間は早く車の所へ帰り着く。うまく行ったら石を一つ稼げろ。△479mを少し行くと右手に地藏さんが立っておられ、その横に小さな地藏さんが7体おられた。此の世の明るさも見られず暗のうちに葬られた幼い生命の来世の幸せを願って祀られたものだろう。湖東三山のうちにもたくさん祀られているのを見た。幼い生命よ、安らかに眠ってください。お地藏さまが護ってくださいから、六字の称名がなんのためらいもなく口をつくのも年令のせいかな。

この道はすぐに終り驛道になるが、これを越えんと車のところへ帰れないので、全員一生懸命に歩き出す。左に振るとアカンと、右へ、右へと歩いている心算が、どうしても歩き易いところに行く為か、ヤブはたいしたことがないのに、地形に惑わされてか、何時の間にか知らぬまに左に寄っていたらしい。先頭の三橋さんが林道らしいと云われたので前方を見ると明らかに土盛りをしたものが見える。ヤッと林道に出た。ところがそれは林道の終点であった。

此んな所に林道なんて地図に出ていない。俺の位置は何処だ、全員鳩首凝議。どうも、もう一つ登らんと向う側に出来ないらしい。それを聞いた途端に不甲斐なくも腰部のバランスを失い地面にへたパッテ仕舞った。ワハー、まだ登らんならんのかー。それを見た岡田部長が老体を哀れんで、「これ以上は、お父ちゃんには無理やサカイ、この林道を降りよー」と云ってくださった。その御顔を拝したとき正に地獄に仏、先程下でおがんだ御地藏さんのような慈悲の顔に見えたのは小生の僻目か。

何処へ出るのか判らんが下って行くと左手から登って来る驛道に近い林道があったので、それを下って行くと、先程、三橋さんと大槻さんが水を汲んだ地点に出た。全員、何んや、これは。完全なリングワンデルングをやらかした。全員ショック。それから車の位置迄、ながーい、ながーい舗装道路を落陽を背に歩いた。

反省

地図は常に新しいものと買い換えておかないと、とんだ失敗をするものだ。林道が尾根の向い側にもう一本あるとは思ってもよらない出来事だった。

〔参加者〕 岡田茂久、三橋 勉、大槻貞従、津田 実

〔コースタイム〕 12月15日

9:40 観音寺…10:05 林道…10:40 尾根取付…11:00～12:10 阿星山…12:35 林道…13:10 西寺…13:20～13:30 えん堤…14:13 林道終点…14:39 合流点…15:00 西寺…15:45 車止
16:20 京都東I.C

第1566回例会

納 山 会 (落 合 周 辺)

広 瀬 光 太 郎

12月22日 27人の参加で保津川落合付近において行いました。

第一部は、オリエンテーリングの踏査競技として、落合～六丁峠～清滝～落合へのコースを右廻り左廻りの2班のコースに分け、5分さみのスタートで出発し、ポイントの正確な位置の認識と走行タイムを総合して評価を行い、順位を決める競技を行いました。

総合的に、壮年、婦人のガンバリが目立ちましたが、これは日頃の訓練と山になれているという結果が表われていると考えられます。

成 績 及 び 踏 査 競 技 の 概 要 に つ い て は 、 別 図 及 び 別 表 を 参 照 し て 下 さ い 。

踏査競技終了後、各自の弁当と部で用意をしたブタ汁と少々ビールで、第2部の納山会を開きました。ここでは、もちつきを行い、きなこもち、おはぎをこね、全員でほおばり、納山会を終了しました。

京 交 山 岳 部 踏 査 競 技 会

昭和60年12月22日

(正 解)

この競技は時間点とポイント点の合計で順位を決めます。

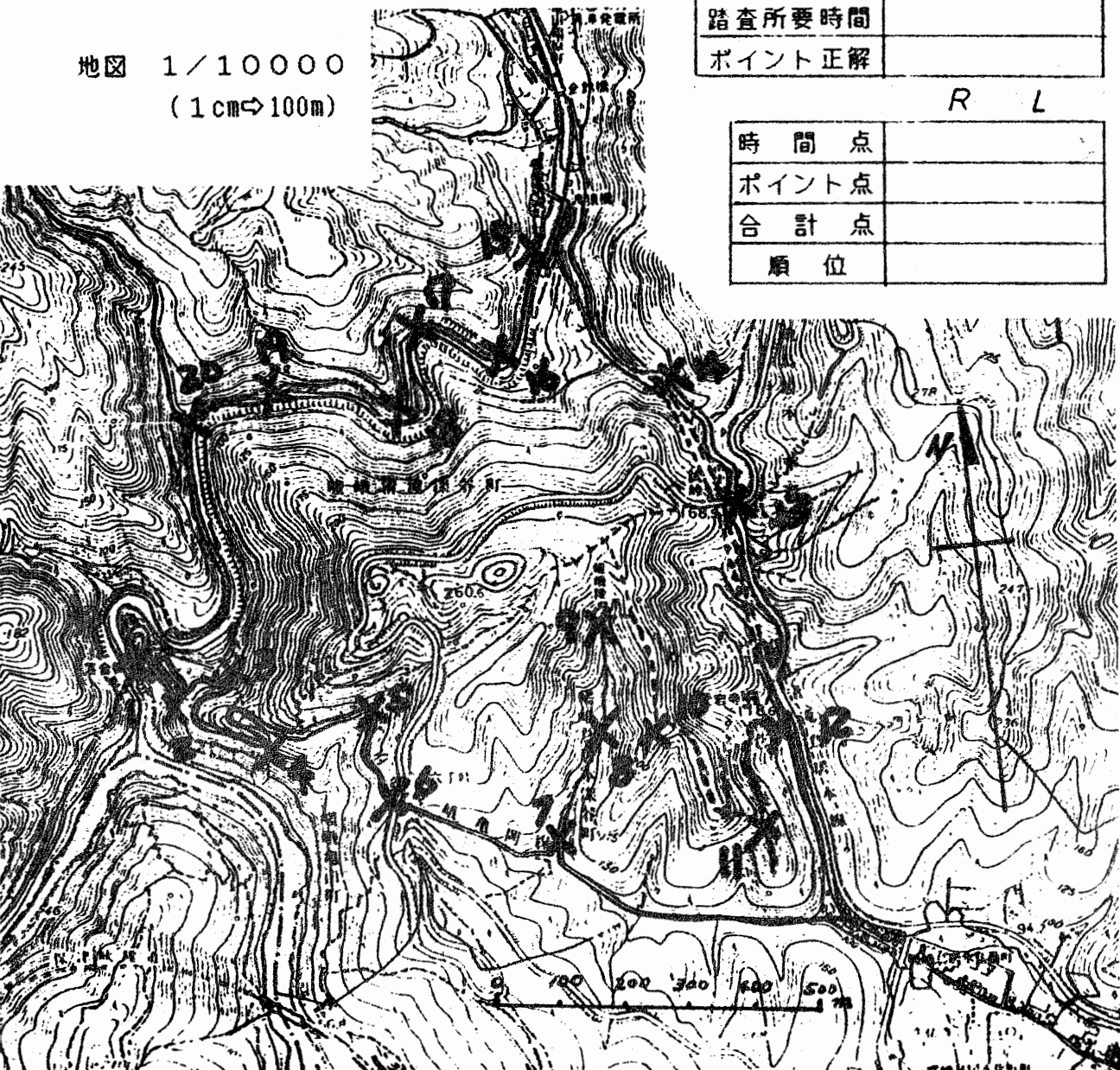
1. 地図のルート通りに歩いて下さい。ポイントを見つけたらその位置を地図に記入して下さい。
まずその位置に(・)を押し(X)をしてポイントの番号を記入する。……(X)の交点に、(・)がくるように 例 (X 13)……
2. ポイントは20ヶ所。……右廻りでは20→1。左廻りでは1→20です。……
3. ポイントの位置記入の誤差は50mまでは正解とします。
4. 途中、チェックポイント2ヶ所で通過確認を受けて下さい。…場所はヒミツ…

名 前	タ イ ム						ポ イ ン ト		合 計	順 位
	発 順	スタート	ゴール	タイム	得点	順位	ポイント	得点		
(左廻り) 1→20										
広瀬・岡本子×2	1	0.00	2.06	2.06	-75	11	-	-	-75	12
井戸ファミリー3	2	0.05	1.36	1.31	0	8	20	60	60	7
河 合	3	0.10	1.52	1.42	-51	10	16	48	-3	11
三 橋 功	4	0.15	1.15	1.00	31	2	16	48	79	3
出海・吉田サナエ	5	0.20	1.29	1.09	22	4	17	51	73	6
山 元	6	0.25	1.32	1.07	24	3	18	54	78	4
(右廻り) 20→1										
津 田	1	0.00	1.31	1.31	0	8	13	39	39	10
楠	2	0.05	1.41	1.36	-5	9	17	51	46	9
足 立	3	0.10	1.37	1.27	4	7	16	48	52	8
鷲 見 末	4	0.15	1.30	1.15	16	6	19	57	73	5
大 木	5	0.20	1.32	1.12	19	5	20	60	79	2
古 市	6	0.25	1.16	51	40	1	16	48	88	1

* ポイント点上位のものを順位でも上位とする

道路の横断には特に
自動車に注意！

地図 1/10000
(1cm ⇔ 100m)



氏名	
ゴール時間	
スタート時間	
踏査所要時間	
ポイント正解	

R L

時間点	
ポイント点	
合計点	
順位	

奥美濃

横山岳二等△1131.7m

大槻貞従

テント生活の楽しさがたまらなく懐かしくなると、山へ出かけていく。サンマやイワシの煙りでもうもうと谷を包んで夕食をしていると、山を一人占めしたような気分になり楽しい。手近かで静かな山、しかも春スキーの下見も兼ねて、湖北にいい山がある。仕事の都合で果無山脈へ行けなかった代りに、紅葉狩りに、横山岳へ行くことにした。

11月3日(日) 快晴

北陸本線木ノ本駅から303号線を金居原へ向って車を進める。金居原の一つ手前杉野を「横山岳登山口」の導標に従い、国道から分れ、左へ網谷川沿いの林道を約2km走ると左から来ている枝道がある。それを約50m程いくと左に平地があるので、駐車場兼幕営地として使う。水場もすぐ横に横山岳から流れている清流(網谷川の左俣)が使える。右俣沿いに林道はかなり奥まで入っているが、行き止まりである。この駐車した場所から北方向へ谷が真直ぐつき上げた奥にひときわ高くそびえているのが、横山岳である。

11月4日(祝) 快晴

早朝枝道を約300m程歩くと、登山道に変わった。湖北の山は入山者が少ないとみえて、今にも蔓草に被われそうな細々した道が左岸に右岸にと谷筋に続いている。それでも歩きやすい明るい谷道を40分程登った頃、15mはある「経の滝」に出会う。じょじょに急傾斜になる谷を一直線に約20分溯った頃、立派な五銚子の滝(5段になっていて全長25m程)が現れる。杉野村にとって、大切な水源地であるらしい。麓に横山神社が祭られている。

ここから正規のルートは、右へ地道をたどることになるが、我々は左の濁沢に入った。歩きやすいゴロ石の沢で、かなり登られているらしく、岩の頭が白っぽくなっている。2ヶ所小さな濁滝をスリリングによじったが、とうとう奥美濃特有の黒い細かいホールドのすべりやすいなめ滝に出会う。これは高巻きしようとしたが、よく見上げると、その上は岩稜地帯なので、もはやこれまでと、左の尾根へ取付くことにした。かなりの藪だが黄紅葉の樹葉樹林なので苦にならず、かえって楽しい。真青な空に黄紅色の葉がすけて見え、樹々を染めている。友人の顔も黄紅色く染っていた。兎の糞がかたまっており、なんとなく動物が昼寝でもしそうな原生林の中を我々も遠い祖先に戻った気持で、カサゴソと落葉散り敷く錦繡の絵の中をただ高い方高い方へと這い上っていった。約40分藪こぎした頃、ひょっこりと尾根道(三高尾根)に出会った。ここからはルンランランランと20分程で頂上へ着いた。そこは広く切り開かれ、ブナ林に囲まれた気持ちのいい平坦地だ。今までの苦勞をいっぺんに吹きとばしてくれる展望のよききいた三角点である。

見ると北方向には両翼を長々と広げたような上谷山(かみたにやま)(△1,197m)が優雅な姿

を見せている。この江越国境稜線を栃ノ木峠まで残雪期にツアーすれば、どんなにすばらしいか。しばらく時間の経つのも忘れて見入っていた。想像するだけで楽しくなってくる。来年の春が待ち遠しい。その右奥に一きわ目立つ尖峰が冠山であろう。比良では味えない奥美濃の重畳たる山脈が果てることなく続いている。時間があれば、東峰まで藪こぎの散歩も楽しいだろう。

下りは三高尾根を鳥越峠からコエチ谷へ出るコースが無難である。赤ペンキや、ロープを配され整備された正規の正面ルートも悪くはないが、雨の時は急傾斜で、且つ直線のため大変だろうと思う。又、この正規のルートを登りにとると、ちょっとした湿気でもよくすべり、非常に疲れる道である。あまりおすすり出来ない。友人は降り着いた車の中からゴルフクラブを取り出し、白球を惜しげなく山に向かって気持ち良さそうに飛ばしていた。今下ってきた深い谷に白球が吸い込まれていく。その奥に横山岳が悠然と聳えていた。

〔コースタイム〕

テント地 8:00…網谷川左俣…経の滝 8:40…五銚子の滝 9:00…涵谷、藪漕ぎ…三高尾根
10:40…頂上 11:15…東峰の途中 13:15…正面コース…五銚子の滝 14:15…経の滝 14:30
…テント地 15:00 - 京都 18:00

ワラビの谷の山

伊藤潤治

久しぶりに坂内村に行き、ワラビの谷の山を登った。この山は740.7mで二等三角点が置かれているが、小粒で目立たないためか、ほとんど見向きもされていない、と思う。

この山の測量は宮崎和作氏で、手掛けられた選点を「二等三角網図第119部」によって見ると、

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 塚奥山(金草岳 1,227m 冠山) | 9. 品又(貝月山 1,234m 横山) |
| 2. 古木(オオビラ 744m 冠山) | 10. 小津(権現山 1,158m 横山) |
| 3. 日野山(日野山 795m 靖江) | 11. 川上(ナンノザカ 1,068m 横山) |
| 4. 戸谷(ホノケ山 737m 今庄) | 12. 荒谷(千回沢山 1,246m 冠山) |
| 5. 上谷(上谷山 1,197m 横山) | 13. 開田(上谷山 1,086m 冠山) |
| 6. 横山岳(横山岳 1,132m 横山) | 14. 若丸山(若丸山 1,286m 冠山) |
| 7. 深谷(白倉の頭 1,271m 横山) | 15. 横谷(ワラビの谷の山 741m 横山) |
| 8. 蕎坪山(蕎麦粒山 1,297m 横山) | |

であって、ワラビの谷の山にはこのように兄貴分の山やまが、美濃、越前、近江の三国にそれぞれ座を占め、いずれも隠れなき蒼れも高き名峰たち。

だから私は、ワラビの谷の山の毛並みの佳さを大いに誇っておきたい。本行は、宮崎日出一(山岳巡礼子)と西尾寿一(京都山の会々長)と竹内康之(京都山の会)の三兄と私の珍らしい顔ぶれ

ワラビの谷の山付近地名図



で、これは宮崎、西尾両兄の間で懇親山行の話ができたのに、私も加わってその日時や山選びは西尾兄まかせである。

日時は12月1日、日帰りとしたが、山選びはお互いにどんな山でも構わない、と思っても、選ぶ立場ともなればこんな山か、と思われたくない。できる事ならお互いが未登で美しい頂きを探し当てたいのが人情。苦労は大変であったに違いない。

西尾兄からワラビの谷の山の相談を受け、私は既登であったが喜んで賛同。宮崎兄も勿論異議なく、めでたく登頂の運びに至ったのである。

朝7時、四糸橋手に落合、名神の米原トンネルを抜けると、伊吹山が早くも雪をつけ、一同の眼を輝やかす。関ヶ原から垂井、梅ヶ谷越えて揖斐郡に入り、池田町、揖斐川町、久瀬村を経て坂内村につく。

雪は路面になかったが、天狗山はきびしい装いをこらしていた。登路は、ワラビの谷のワラビの谷の山であっても、1979年1月24日、私は山下兼充君と降雪の中、雪深いワラビの谷を登り、新しいヤグラのあった飲み物の他は、冷たくうるさかった思いがこびりついたままでいるので、この日は、測量時の順路が点名である例が多いため横谷を推薦していた。

しかしだからといって、取付き点をあらかじめ調べてきた訳でもない、漫然たる臨場主義。白川右岸(川熊)で畑の婦人に、お寺の前で橋を渡るよう教えていただいて地形図を見ればちゃんと分かるのに、このおおよそさは、何とした事か。

橋を渡って登路を尋ねると、初めの親子はワラビの谷説であったが、近所の屈強な壮年氏が現れて、横谷がよいと、その道順を説明してもらい、横谷出合に駐車して登り始めた。そこに雪はなかったが屈強な壮年氏は、この雪にヘルメットを置いて紛失してきたそうだから、山の積雪は相当に深いらしい。ちなみに、オオカヤには殿又林道が△1,067mにとどいている、と聞かされた。

左岸で竹林の裾をすぎ右岸に変わると道は、谷を背にして行きそう、西尾兄の眼が背にした左岸の道をとらえてくれたのでそれに移る。水路跡の感じ、間もなく出合で右の谷に入る。

もう、ここにきては溪谷歩きの専門家やカモンカ顔負けの巡礼さんたちの独壇場。かくて快調なる先導陣のおかげで、足の運びは楽しかった。

溪を離れると、雫や雪を浴びなければならなくなり、雨具をつけた。しんがりは、ただ踏跡をたどり、雫も雪も少なくて気楽な筈だが、結構ぬれて、やはり頑張らねばならなかった。

山頂近くなって、カスに裂け目が。これを西尾、竹内両兄は見逃がさず、カメラとは流石だ。宮崎兄は既に頂上にあつて、積雪を鮮やかに掘り掘り、保護石に囲まれた△に、御神酒、肴で飾りつけてもらってあった。その用意された美酒珍味での祝盃は、仰山の歓喜となって私の全身を馳け巡った。この上なき岳友たちとのたのしい滞頂。無風で臨めた、丁子山、蕎麦粒山、荒倉、黒津、天狗山など。いつまでも見飽きぬよき眺め。

私はよくぞ、この再登と恵まれ、すばらしいづくめであった感動がつづいて、まだ納まっていない。たしかに、揖斐川上流山地は、私に安らぎや感動をもたらす故郷であり、母なる山地であると思った。

京都 7:00 - 横谷出合 10:10...ワラビの谷の山 12:10 ~ 13:15...横谷出合 14:20 - 三条京阪
18:10

1986年1月5日

柳生街道-滝坂の道-奥春日

原始林を歩く

12月1日(日) 晴

田中定勝

寺田 8:50 新田辺奈良行急行乗車-西大寺-近鉄奈良駅下車

奈良公園には泉下のマラソン大会のスタート前で大勢の人が集まっておられた。春日大社に詣り春日若宮、新薬師寺、高畑の道を東に進む。いよいよ山道にかゝる。御蓋山の南麓を能登川の溪流沿いに春日の原始林石畳の道が、滝坂の道とも呼ばれ、秋にはとくに美しい。落葉を踏み乍ら行く。荒木又衛門や宮本武蔵など剣豪が歩いた往時そのまゝの姿をとどめ昔が偲ばれます。

「寝仏」 この道の左路傍にころがっている自然石の墓面に、大日如来と覚しい仏像が陽刻されている。転落して横になっているので、寝仏と呼ばれている。

「夕日観音」 さらに上、山腹の自然石付近に多数石仏が彫られている。その内2m近い弥勒仏が夕日観音と呼ばれ鎌倉時代の作である。

「朝日観音」 少し登ると朝日観音と呼ばれる三尊磨崖仏がある。朝日観音前の石畳の道を東へ。

「首切地蔵」 荒木又右衛門が試し斬りをしたと伝えられ、首のところで割れている。鎌倉時代の造立。

「春日山石窟仏」(穴仏)

西側の山に南面して穿かれた東西二室の窟に多くの仏菩薩像を高肉に彫り出している。金剛界(西)、胎蔵界(東)を表わすものであろうか、西室には保元2年(1157)久寿2年(1155)の銘があり、藤原末期の作とわかる。もとは彩色していたものらしく、その痕なかなか面白いものであるが、石面の風化が甚だしい。

「地獄谷石仏」(地獄聖人窟)

穴仏から南東約1km、凝灰岩をくりぬき正面壁に如来坐像、左右の二尊を有する三尊形式で、彩色も残り制作年代は藤原期と見られるが、天平觀もある。いずれにせよ、春日奥山中最古の石仏である。

峠の茶屋で一寸休憩して春日奥山ドライブウェイ本通りに出て鶯の滝へ。

「鶯の滝」 春日山原始林の清流を集めて落下する約10mの小さな滝であり、奈良市内に唯一の滝で、夏には涼を求める人々に賑わう。近くに歓喜天をまつる歓喜堂があ

り、深山幽すい境の感がある。

…三笠山 春は音にて知られけり 氷をたたく鶯の境…

と西行法師も詠んでいる。

この滝を見て若草山展望台から若草山の全景や古都奈良の街を眼下に眺め、展望台を後にして、曲りくねった坂道を若草山山麓まで下り東大寺山内を経て近鉄奈良駅へ。5:00帰宅。

南禅寺一山科一大文字山

12月15日(日) 晴

寺田7:45 京都駅地下丸太町一天王町下車

年中で一番日の短い時期で今年納めの山登りと思って近くのコースを選んだ。天王町から若王子神社に詣り、若王子山一南禅寺山一浄水場公園一インクラインの日向橋の手前にある疏水運河の功労者、田辺朔郎顕彰碑の前で小休憩して日向大神宮に詣り、天ノ岩戸一駒ヶ滝一山科毘沙門(昼食)1:00出発する。

大文字山三角点一弘法大師堂一大文字火床一千人塚一鹿ヶ谷一哲学の道一天王町一バスにて京都駅一近鉄一寺田 5:00帰宅

山岳部新年会

61年1月7日

新年の抱負

津田 去年は総会で50山登ると言ったが、20数山しか登れなかった。今年は7月の梅雨明けに立山～薬師岳縦走をするつもりなので、ふるって参加して下さい。

荒田 去年は男児が産んだので、その子が10才になるまで頑張りたい。10才になったら一緒に登るつもりだ。今年は最低17回は登りたい。(その内訳は、毎月1回、ボーナス3回、精算1回、年末調整1回)

大槻貞 今年も山スキーで頑張りたい。3月頃福井県の取立山へ行きたい。

古市 寒年にはいたので、61年の山登りはせいぜいよい山に登り、スーパーでなくモチラーメンですごしたい。

武田 今年も1回だけでもよいから、よいスキーツアーに行きたい。3月頃を予定している。

- 和田 去年は府県境シリーズを皆勤しました。今年は府県境シリーズ12回に+αをできるだけ行きたい。
- 奥村 去年は八ヶ岳に行けずに残念だ。今年は津田さんの立山～薬師にぜひ御一緒したい。初登りの大和三山のように名所旧跡を巡るプランも立ててほしい。それに温泉があり、きれいなねえちゃんも一緒だということない。
- 方山 今年も楽しい山行をしたい。さそって下さい。
- 近藤 昨年と同じで、1年に1山を最低の目標にしたい。山の高さも、天王山は270mだが、山という名がつけばそれでも山であり、山という名がつかなくても、石堂ヶ丘というポンポン山と同じ高さの山があるが、そうしたものも含めて1年に1山を目標にする。最近では心臓が弱くなって迷惑をかけるが、1人でゆっくりいくのならいける自信はある。部報への投稿も、忘れられない程度に投稿したい。
- 渡辺 例年どおりですが、よい山行があればつれていって下さい。
- 河村 仕事の関係で皆さんと一緒にいけないのが残念だ。伊藤さんとはよく登っており、去年も12～13回行った。今年も月1回程度登りたいし、又旅行もしたい。
- 原出 今年も自分の体力にあった山に登りたい。
- 大倉 去年は岩登りの基本をマスターすることに頑張った。今年は雪彦の岩場3つを完登したい。
- 楠 今年も頑張って登りたい。名所旧跡巡りもお願いします。
- 井戸 去年と同じく、ファミリー登山、雪山、岩登りと、いろいろやりたいのでよろしくおさそい下さい。
- 山口 今年も頑張って登りたい。
- 大木 去年は初登りのあと中だるみの状態となったが、年末の星を見る会のあと、双眼鏡を買って夜空を見て楽しんでいる。

- 竹井 新人の竹井です。よろしくお願ひします。
穂高のうちジャンダルムだけまだ登ってないので今年はずせひ登りたい。
- 鷲見 今年是由良川源流完全廻行をしたい。
- 吉田 今年も楽しくいきたい。1月25～26日に伊吹山で山スキーをするのでよろしく。
- 大槻雅 去年は白山、笠ヶ岳、果無の3山を登り、自分の目標を果たせた。今年からは日本百名山、岐阜100山、近畿100名山をそれぞれ1年に1山ずつ登りたい。又、自分の年代でないと登れない山、自分の体力を知る山登りもしたい。
- 川原 去年の5月からあまり登っていない。最近山にあがき(岩登り)にいらっているようだ。体も太ってきた。今年54年に山岳部に入部したときの気持ちでやり直したい。
- 村 実年の村です。去年の八ヶ岳では私1人で平均年齢を上げたようです。今年もぜひお供したいのでよろしく。
- 田中 去年の秋に釈迦嶺と冠山に登ったのがよかった、岐阜から日帰り登れるようになったのは感無量です。年末・年始は仕事で走りまわっていますが、おさまればまた登りたい。
- 岡田 かぞえ年ですすでに実年にはいりました。去年はマイペースでいきたいと話しましたが、今年もマイペースでいきたい。今年は大峰の奥駈けをやりたい。越美国境(伊吹～大日)で2・3未登の山があるし、不動山千回沢にもいきたい。又、府県境シリーズは今年もぜひやりたい。皆さんも1年に30山以上登るようお願ひしたい。
- 三橋 去年は白山のスキー登山が最も印象的だった。今年も行きますのでよろしく。北山クラブの故小松氏の書いておられる3月の雪山、判官堂尾根や津田さんと越前カブトも行きたい。

今年下鴨奈で「カニスキ」で楽しい親年会を開催しました。

金一封を奥村氏と篠田氏に、また清酒を、近藤親分と荒田氏そして新人の竹井氏からいただきありがとうございました。またお世話していただいた担当の田中さん、会計の川原さん、ごくろうさまでした。

(記録 井戸)

例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1565	(変更) 阿星山	12月15日	晴	(田中忠久)	津田、岡田 大槻貞、 三橋	思わぬ積雪で現地まで通行不能となり、予定を湖北から湖南の山に変更した。 別稿報告
1566	納山会 落合周辺	12月22日	晴	広瀬光太郎	井戸F3、河合、三橋F1、出海、吉田F1 山元、津田、楠、足立、鷺見F1、大木、古市 大槻雅、岡田、岡本F2、方山、山村、木下	別稿報告
1567	大和三山	1月5日	しぐれ	岡田 茂久	津田、奥村 方山、荒田 川原、三橋 鷺見F1、村 和田、 井戸F3	橿原神宮に参拝したあと畝傍山に登り、レンタサイクルで天香久山にて昼食後、耳成山に登り井戸ファミリーと別れて史跡めぐりをした。 次号報告

雑 報

▲ 部費受領

市役所 中山忠之

高野 坂本雅美

錦林 生田敏雄

洛 西 武田喜久郎

▲ 退 部

高 野 坂本雅美

梅津 榎木敏夫

▲ 他山岳会の会報(受贈分)

12月号 青嶺(山ノ会)

1月号 近畿山行、木雞、趣味の登山、一等三角点、京都山岳、取巻譜、比良山岳

2月号 北山、近畿山行

帆 布 ・ 漚 布
テ ン ト ・ シ ー ト
雨 合 羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店 伏見区柏香町西友ストア-4 F
TEL (623) 0824
山科店 山科区音羽野田町1番
西友ストア-山科店
TEL (592) 9770 内線 228

一年中、山用品だけの
営業時間 **プロショップ**
午前10～午後1時と午後3時～午後8時
(午後1時～3時は閉店させていただきます)

<定休日> 火・水曜日

山・アウトドア プロショップ

ログケビン



京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
(四條河原町・阪急河
原町より徒歩約4分)

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店

あらゆる地図のご用命は

株式会社
小林地図専門店

600 京都市下京区烏丸通六条下ル
TEL 075(351)6598(代)
地下鉄：烏丸五条 6番出口南50m
市バス：烏丸六条下車

昭和61年2月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部



お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改装計画に伴い、一時立退きと相成りました。
改装期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。



移転先 本店2階

京都市中京区西ノ京門町 24

ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい...ネ

山とスキー

☆在庫豊富にとり揃えています

☆山の道具は セヒ 御相談下さい

山とスキー専門店
ビッグ"ホリイケ"

河原町店 上・河原町通丸太町東入

TEL 222-0363

御婚礼
御月越



専門

きおん菊水運送株式会社

山科配車センター

京都市山科区西野山階町 12-12

TEL (075)581-3101

本社

東山区大和大路四条下ル 541-2345

夷川営業所

中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442



京都 山とスキーの店
あるを

京都市中京区新町三条上ル

075-255-0288



この用具の事ならニッパが一番だ!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ

そして

海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1202